



2013
年度

こころを育む総合フォーラム 全国運動

活動のご案内 &

子どもたちの“こころを育む活動”

受賞事例

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は、
下記のみなさまからのご協賛・ご後援をいただき活動しております。

協 賛

トヨタ自動車株式会社
パナソニック株式会社

後 援

文部科学省
東海旅客鉄道株式会社
読売新聞社

こころを育む総合フォーラム 全国運動に関するお問い合わせ



公益財団法人 パナソニック教育財団内
こころを育む総合フォーラム
全国運動 事務局
〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル6階
TEL.03-5521-6100 FAX.03-5521-6200
URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

全国大賞受賞
熊本市立出水南小学校の
招待状を手にする子どもたち



「こころを育む総合フォーラム」より

「こころを育む総合フォーラム」は、昨今のさまざまな社会事象から浮かび上がる日本人のこころの荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

「こころを育む総合フォーラム」では、設立以来、日本人のこころのありようについて討議を重ね、提言書をまとめ発表するなどの提言活動を行ってまいりました。また、この提言を具体化するために、子どもたちの「こころを育む」活動を応援し、広げるための全国運動を呼びかけています。東日本大震災に際しては、被災地の子どもたちに「安心できて自由に集え開かれた居場所」が必要であるという思いを基に、支援活動を行ってまいりました。

この全国運動では、2008年度より、全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となる優れた活動を表彰し、運動の元気づけを行っております。6回目となる2013年度は、全国各地より寄せられた活動事例の中から4件が選出され、もっとも優れた活動として、熊本市立出水南小学校が全国大賞に選ばれました。

本書では、2013年度受賞の全4事例についてご紹介いたします。表彰式や全国キャラバンなどを通じて、子どもたちの「こころを育む」活動を実践されている方々の交流も進み、全国に活動の輪が広がっています。本書が、受賞団体をはじめ活動を続けている方々へのエールとなり、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」がさらに広まるきっかけとなることを、こころより願っています。

■こころを育む総合フォーラム 有識者メンバー (2014年3月31日現在) (敬称略・50音順)

安西祐一郎 (日本学術振興会 理事長)	張 富士夫 (トヨタ自動車 名誉会長)
石井 幹子 (石井幹子デザイン事務所 主宰)	遠山 敦子 (パナソニック教育財団 理事長)
市川 伸一 (東京大学大学院 教育学研究科 教授)	長榮 周作 (パナソニック 会長)
上田 紀行 (東京工業大学リベラルアーツセンター 教授)	中村 桂子 (J T生命誌研究館 館長)
葛西 敬之 (東海旅客鉄道 代表取締役名誉会長)	野依 良治 (理化学研究所 理事長)
梶田 叡一 (奈良学園 理事)	平野啓一郎 (作家)
金澤 一郎 (国際医療福祉大学大学院 院長)	三村 明夫 (新日鐵住金 相談役名誉会長)
佐々木 毅 (東京大学名誉教授)	山折 哲雄 (国際日本文化研究センター名誉教授)
滝鼻 卓雄 (前 読売新聞東京本社 相談役)	鷲田 清一 (大谷大学 教授)
竹内 洋 (関西大学 東京センター長)	

■活動のご案内

「こころを育む総合フォーラム」からの “七つの問い”	4
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」とは?	6
「こころを育む総合フォーラム」主な活動	8
「こころを育む総合フォーラム」活動の経緯	10

■受賞事例紹介

2013年度受賞事例

●全国大賞 小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動 熊本市立出水南小学校(熊本県熊本市) 【活動領域: 家庭・学校・地域】	12
●優秀賞 入院生活を送る子どもたちにワクワクする時間を提供 Wonder Art Production(東京都千代田区) 【活動領域: 家庭・学校・地域・企業】	16
●優秀賞 地域と子どもたちを結び、子どもたちの生きる力を育む みんなでつくる学校 とれぶりんか(大阪府枚方市) 【活動領域: 家庭・学校・地域】	17
●奨励賞 福島と全国の絆づくりと共に、雇用対策、観光対策、教育対策を 特定非営利活動法人 チームふくしま(福島県福島市) 【活動領域: 家庭・学校・地域・企業】	18

■2012年度受賞者紹介	19
--------------	----

Contents ●目次●

子どもたちのために できること

「こころを育む総合フォーラム」からの 「七つの問い」

「こころを育む総合フォーラム」では、子どもたちのこころを育む活動のヒントとなる「七つの問い」を呼び掛けています。家庭・学校・地域・企業など、子どもたちを取り巻くすべての場所で、きっとできることがあるのではないのでしょうか。

家庭



- 子育てはみんなの手で
- 大事にされているという体験、それが信頼の基礎
- 子育てにもっと高い社会的評価を
- 母親を孤立させないための仕組みを
- 子育てを楽しんでいると感じられる環境を

● 家庭での育みを見なおすための 七つの問い

- 1 幼い子どもに、親(保護者)は、たっぷり愛情をそそいでいるだろうか?
- 2 子どものよい点をしっかり誉めて、自信をもたせているだろうか?
- 3 子育ての不安、ストレスへの対応は、家族、親戚、近隣、保育所などでともに担われているだろうか?
- 4 子育ては苦労もあるが、幼い子の育む喜びと楽しみがあるということが、きちんと認識されているだろうか?
- 5 親(保護者)の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか?
- 6 家庭で、子どものころからよい生活習慣を身につけさせているだろうか?
- 7 子どもは社会のみんなが育てるもの、家庭はそのなかでもっとも重要なものだとして認識しているだろうか?

学校



- 学校は社会性を身につける場所
- とともに力を合わせて学校をつくるという態度を
- 「いじめ」をめぐって
- 学校をもっと開いていこう
- 社会の一人ひとりが人を育む気概を

● 学校での育みを見なおすための 七つの問い

- 1 学校は、子どもたちにしっかりと学力を身につけさせ、先生や友人との関係をつうじて対人関係の基本を育てているだろうか?
- 2 教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか?
- 3 学校では、道徳教育を魅力的で説得的なものにするよう、工夫をしているだろうか?
- 4 道徳教育の時間だけでなく、学校全体で「こころを育む」という姿勢をとっているだろうか?
- 5 学校では、「こころを育む」ための具体的なアクションをとっているだろうか?
- 6 学校と親(保護者)とは、たがいの立場を尊重・理解し、協力しあう関係にあるだろうか?
- 7 学校と地域の大人たちは、一致協力して、子どもたちの居場所、子どものための相談場所を設けているだろうか?

地域



- 子どもが自然に育つ場
- みんなで協同して事にあたる力を
- 地域社会の新たな役割
- 子どもの視点に立ったまちづくりを

● 地域社会における育みを考えるための 七つの問い

- 1 地域のだれもが、子どものこころを育むという姿勢で、子どもに接しているだろうか?
- 2 地域として独自の役割を考え、学校とセットで、子どもたちの学習環境をつくっているだろうか?
- 3 地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育てているだろうか?
- 4 地域のなかに子どもたちの居場所をきちんと設けているだろうか?
- 5 地域教育プログラムの充実と活性化を図っているだろうか?
- 6 地域活動への参加を子どもたちに促すための施策を実施しているだろうか?
- 7 子どもたちの視点に立ったまちづくりをしているだろうか?

企業



- 文化としての「育み」
- 思いどおりにならないこと
- 子どもたちを苛む(わたし)への問い
- 企業も地域における子どもたちの「育み」をともに担おう
- 情報社会という環境

● 企業・メディアによる育み支援を考えるための 七つの問い

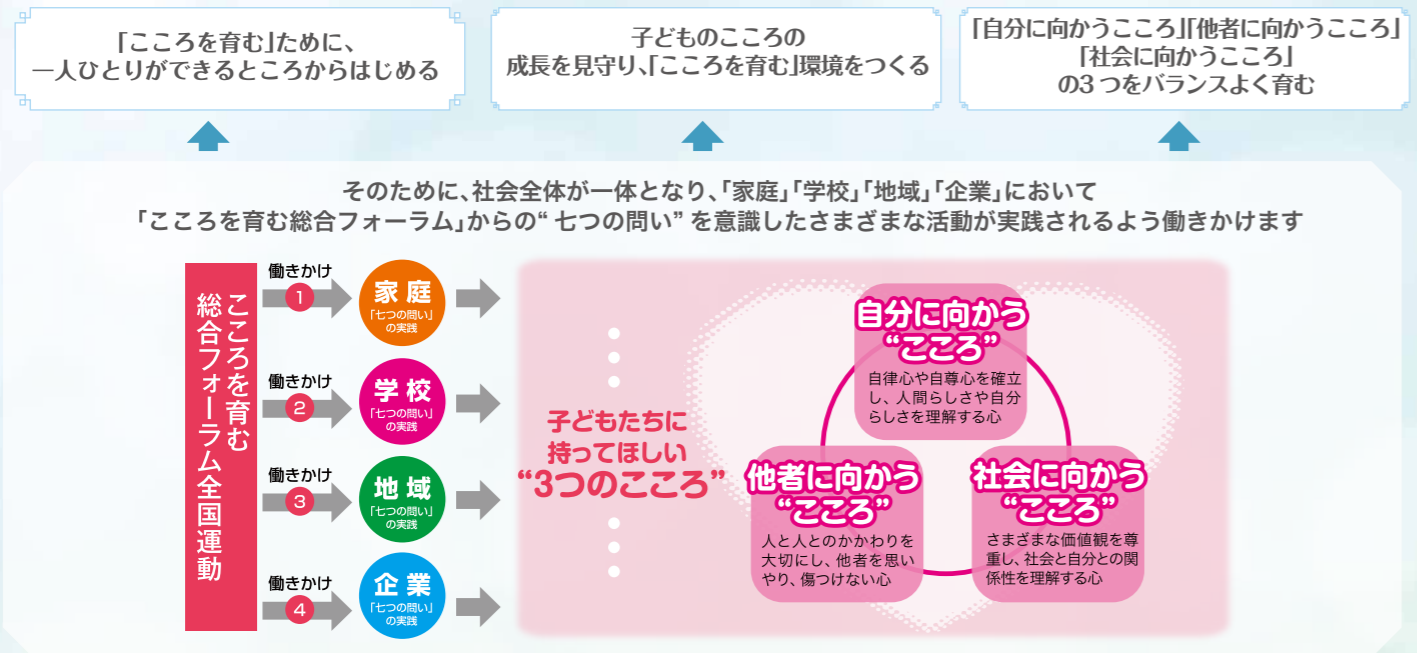
- 1 企業は、その使命と役割を自覚した行動ができているだろうか?
- 2 企業人は、みずからが同時に市民・生活者であることの自覚を十分にもっているだろうか?
- 3 企業人一人ひとりが、同時に市民・生活者として、よりよい社会づくりに積極的に関与しているだろうか?
- 4 企業みずからが、市民としての社員教育に積極的に取り組んでいるだろうか?
- 5 メディアは、子どもたちに学びや仕事の意義や楽しさを、きちんと伝えているだろうか?
- 6 メディアは、地域のすぐれた教育活動の事例を、進んで報道しているだろうか?
- 7 わたしたちの社会は、高度情報化社会が子どもたちの対人関係に与える影響を考えた対応をしているだろうか?

なぜ、今、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけるのか

想像を絶する残虐な事件、組織の不祥事、人として守るべきマナーの欠落。私たち日本人が本来持っていたはずの素晴らしい倫理感はどこへ行ってしまったのでしょうか。このような状況に危惧を持ち、未来を担う子どもたちのために、全国各地でさまざまな活動をされ

ている方々があります。「こころを育む総合フォーラム」では、そのような活動を応援し、全国に広げるために、そして子どもたちの健やかな未来をみんなで考えるために、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけています。

全国運動のねらい



全国運動を実施する主な事業とは

全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を支援するために「呼びかける事業」「紹介する事業」「ほめる事業」「広める事業」の4つの事業を展開いたします。



呼びかける事業

- **事業のねらい**
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすことと同時に、広く社会一般に問題提起をします。
- **事業内容**
パンフレット、ホームページ、新聞等のさまざまなメディアを活用しての広報を実施します。

- 1** 社会全般への呼びかけ
有識者会議^{*}での検討内容を提言書として発信し、社会への呼びかけや問題提起をします。
※P2にメンバーを掲載しています。
- 2** 大人への呼びかけ
子どもたちのこころを育む活動を広く募集し、大人全般に呼びかけをします。
- 3** 子どもへの呼びかけ
子どもたちのこころを育む活動について、各メディア等を通して子どもたちに呼びかけをします。

紹介する事業

- **事業のねらい**
全国で実践されているさまざまな子どもたちのこころを育む活動について、より多くの方々に知らせ、新たにそれらの活動へ参加したり支援をするきっかけを作ったり、活動の改善や新しい領域へ活動の輪を広げる機会を提供します。
- **事業内容**
“ほめる事業”に応募いただいた、全国の多彩な実践活動例の中から特に、子どもたちのこころを育む活動であり、進める・広げる・続ける「3つの工夫」が認められるなど、他の活動の参考となる事例を紹介するため、事例集を作成します。

- 1** 事例集
優秀事例に選出された活動について、目的や内容、主な実践プログラムをはじめ、参加した子どもたちの声、進める・広げる・続ける「3つの工夫」など、実践者の方々への取材を元に、具体的にわかりやすく紹介します。

ほめる事業

- **事業のねらい**
全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、運動の元気づけをします。
- **事業内容**
全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を自薦・他薦、活動の大・小も問わず募集し、審査の上、表彰します。

- 1** 応募できる活動
 - 学校と関わりながら地域・家庭・企業などいろいろな立場の人がともにおこなう活動であること
 - 下記の「3つの工夫」のいずれかが認められること
 - 進める工夫 活動の対象や目的が明確で、進め方における工夫・努力がある
 - 広げる工夫 ネットワークを作り、活動を広げるための工夫・努力がある
 - 続ける工夫 活動を継続するための仕組み・工夫がある
- 2** 表彰の内容

団体	全国大賞	1件	表彰状・楯・賞金100万円
	優秀賞	若干数	表彰状・楯・賞金30万円

広める事業

- **事業のねらい**
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めるために、運動に関心のある個人、また団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことにより、運動のネットワーク化を進めます。
- **事業内容**
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めると同時に、表彰された活動を紹介し、また個人・団体同士の全国規模のネットワーク作り、情報交換の場として「シンポジウム」「全国キャラバン」を実施します。

- 1** シンポジウム (年1回 東京開催予定)
全国から実践者を招き、優秀事例の表彰と紹介、有識者メンバーとのパネルディスカッションなどを通して、情報交換を行ったり交流を深めるために「シンポジウム」を開催します。
- 2** 全国キャラバン (年1~2ヶ所開催予定)
「全国キャラバン」として、「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で活動を実践している方々を招いてパネルディスカッションなどを行い、実践者と交流します。

提言活動

2005年の「こころを育む総合フォーラム」設立以来、各界を代表する有識者メンバーによって、日本人のこころのありようについて討議を重ねています。

有識者会議

有識者メンバーによるブレックファースト・ミーティング（有識者会議）を続けています。ゲストスピーカーを招き、日本人のこころのありようについて、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ねています。



ブレックファースト・ミーティング

有識者対談

「日本人としての教養 ～次世代に承継したいこと」

「東洋経済オンライン」とのコラボレーション企画として、有識者メンバーによる特別対談を行いました。山折座長を中心に、各界を代表する有識者との対談を通して、これからの日本人に必要な教養（こころ）、そしてそれをどう教え継承していくべきかを語っています。

- 第1回 鷲田 清一氏
- 第2回 上田 紀行氏
- 第3回 竹内 洋氏
- 第4回 安西 祐一郎氏



有識者対談はホームページで連載中です。
http://www.kokoro-forum.jp/project_toyokezai/

提言書



有識者会議での討議の結果を家庭・学校・地域・企業などへのメッセージという形で、提言をまとめ発表しました。

提言書は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php>

全国運動

未来を担う子どもたちのために、全国各地でさまざまな活動をされている方々がいます。そのような活動を応援し、全国に広げるために、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけています。

2013年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰式

2013年12月17日(火)、帝国ホテルにて「2013年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰式」を開催しました。6回目となる今回は、全国各地より寄せられた活動事例の中から各賞あわせて4件を選出し表彰しました。全国大賞は、「1000回の交流で育み続けるノーマライゼーションのこころ～隣接する学校のメリットを生かした34年間の積み重ね～」をテーマに活動された「熊本市立出水南小学校」(熊本県熊本市)が受賞されました。表彰式では、今回受賞された4団体に実践事例を発表していただきました。具体的な活動内容ははじめ、活動を進める、広げる、続けるためのさまざまな工夫についてお話しいただきました。



全国キャラバン

フォーラム有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で「こころを育む」活動を実践している方々と交流する全国キャラバンを開催しています。子どもたちの健やかな未来を地域の皆さんと共に考え、「こころを育む」取り組みを広げていきたいと考えています。

◆ 全国キャラバン2013 in 近江八幡 ◆

2013年7月6日(土)に、滋賀県・近江八幡市文化会館において、全国キャラバン「2013 in 近江八幡」を開催しました。近江八幡市は、歴史と伝統、そして自然に恵まれた地域であり、「～自然に学ぶ 子どもが育つ～」をテーマに、梅雨明け前の強い日差しが照りつける中、200名の参加者を迎え行われました。



トヨタ財団・パナソニック教育財団 東日本大震災支援 共同プロジェクト 「子どもの居場所づくりと次世代の育成」

公益財団法人トヨタ財団ならびに、「こころを育む総合フォーラム」事務局である公益財団法人パナソニック教育財団は、東日本大震災で被災した子どもたちの支援と、コミュニティ全体で子どもたちを守り育てる場作りのために共同プロジェクトを立ち上げ、岩手県、宮城県、および福島県において活動される団体の「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を2011年より3年間行いました。

●支援先：各県、各1団体ずつ計3団体

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| 一般社団法人
子どものエンパワメントいわて
(岩手県) | 特定非営利活動法人
「人間の安全保障」フォーラム
(宮城県) | 特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
(福島県) |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|



◆ 全国キャラバン2014 in 伊丹 ◆

2014年2月9日(日)に、2012年度にこころを育む活動・全国大賞を受賞された「東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊」と共に、その活動拠点である兵庫県伊丹市・いたみホールにて、全国キャラバン「2014 in 伊丹」を開催しました。「～この地球の笑顔のため、子どもの瞳を私が輝かせる 輝く家庭・学校・地域～」をテーマに、300名の参加者を迎え行われました。



こころを育む総合フォーラム活動の経緯

2005年

「こころを育む総合フォーラム」発足

- 4月 学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
- 10月 京都にてシンポジウムを開催



ゲストスピーカーを招いての有識者会議



有識者会議

2006年

- 10月 東京にてシンポジウムを開催

2007年

議論をまとめた「提言書」をプレス発表

- 1月 発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
- 11月 東京にてシンポジウム開催



日本プレスセンターで行われたプレス発表



シンポジウムの様子を伝える

2008年

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」スタート

- 6月 子どもたちの「こころを育む」活動の募集・表彰を開始
- 8月 高松・北見にて全国キャラバン開催



全国キャラバン高松

2009年

- 3月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2008年度表彰式・シンポジウム開催
- 8月 浦安にて全国キャラバン開催
- 12月 松江にて全国キャラバン開催
- 12月 「いま、こころを育むとは」(山折哲雄著・小学館新書)刊行



全国キャラバン浦安

2010年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2009年度表彰式・シンポジウム開催
- 10月 山形にて全国キャラバン開催
- 12月 大阪にて全国キャラバン開催



2009年度表彰式での実践事例発表



2010年度受賞者のみなさん

2011年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2010年度表彰式・シンポジウム開催
- 11月 熊本にて全国キャラバン開催
東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2011年度支援実施

2012年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2011年度表彰式・シンポジウム開催
- 4月 新有識者メンバーを迎え、さらなる討議を開始
東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2011年度報告会
- 7月 東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2012年度支援実施
- 11月 三重にて全国キャラバン開催
東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2012年度報告会



全国キャラバンやシンポジウムでの講演内容をまとめた一冊。「いま、こころを育むとは」山折哲雄 著(小学館)

2013年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2012年度表彰式開催
- 「有識者対談」WEB連載スタート(東洋経済オンラインとのコラボレーション企画)
- 7月 東日本大震災支援活動(トヨタ財団との共同プロジェクト)2013年度支援実施
近江八幡にて全国キャラバン開催
- 12月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」2013年度表彰式開催

2014年

- 2月 伊丹にて全国キャラバン開催



子どもたちの「こころを育む活動」

2013年度 受賞事例

「こころを育む総合フォーラム」では、全国各地で実践されている子どもたちの「こころを育む」活動を募集し、優れた事例を支援し、紹介する全国運動を展開しています。審査・選考は、子どもたちの「こころを育む」活動であること、進める工夫・広げる工夫・続ける工夫が認められることなどを基準に行われます。

6回目となる2013年度は、全国各地より寄せられた活動事例の中から、奨励賞1件、優秀賞2件が選出され、もっとも優れた活動として、熊本市立出水南小学校が全国大賞に選ばれました。

子どもたちの「こころを育む」活動の輪がさらに広がることを願い、ここに13年度の全受賞活動事例をご紹介します。



アイコン説明

受賞事例紹介ページでは、「活動領域」と「活動を通して育むことができる3つのところ(くわしくは6ページ)」をアイコンで表示しています。

- 活動領域
- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

● 3つのこころ

- 自分に 向かうこころ
- 他者に 向かうこころ
- 社会に 向かうこころ





立地条件を生かし、2校が交流隣接する熊本支援学校と交流を続けています。交流の際は両校をつなぐ交流門が開かれ、スムーズに移動できるようになっています。

小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動 1000回の交流で育み続ける ノーマライゼーションのこころ ～隣接する学校のメリットを生かした34年間の積み重ね～

●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

●3つのこころ

- 自分に
- 他者に
- 社会に

活動内容の紹介

共に助け合って生きていく力を育むために

学校創立以来34年間にわたり、隣接する熊本支援学校と交流を続けています。障がいのある人の存在を知り、理解し、互いに共生していく実践力を身に付けることを目的として、さまざまな活動を行っています。日常の交流活動として、4年生が毎週火曜日の昼休みに支援学校を訪問。屋内屋外でのさまざまな遊びを通して、交流を深めています。また、年2回開催する交流集会には、両校の全児童が参加。5・6年生が中心となり、支援学校の子どもたちも楽しめるよう工夫したゲームなどを行っています。保護者や地域とも連携し、学校全体で交流活動に取り組んでいます。



全校挙げての交流集会
日常の交流活動のほか、夏と秋に全校児童が参加する交流集会を開催。PTAや地域も活動をサポートしています。

年間を通して行われる交流活動

熊本支援学校との交流を核として、さまざまな交流活動を行っています。

夏・秋の交流集会

夏と秋に熊本支援学校（小学部）の児童を出水南小学校に招いて、全校挙げての交流集会を開催しています。夏の交流集会では、出水南小学校の体育館にて、各学級の交流テーマを発表したり、歌やダンスを披露したりして、交流への想いや願いを共有します。秋の交流集会は、5・6年生が中心となって、運動場にたくさんの出店を作ります。各出店では、支援学校の子どもたちも楽しめるよう工夫を凝らしたゲームや体験活動などを実施します。また、交流集会に向けて、支援学校のパートナーへの招待状を作ります。工夫して作った招待状をパートナーが喜んで受け取ってくれることで、子どもたちは秋の交流集会に向けての意欲を高めています。



「遊び場」交流

毎年、11月頃には、熊本支援学校の先生方手作りの「遊び場」が、熊本支援学校の中庭と屋内に設置（約1ヶ月間）されます。出水南小学校と熊本支援学校の子どもたちが、「遊び場」を使って、創造力豊かにさまざまな遊びを生み出していきます。

教職員同士の交流・連携

両校の教職員が日々連絡を密に取ることで、連携・協力体制を維持しています。出水南小学校の子どもたちの書いた交流日記を通して、教職員同士の話が具体的となり、更なる交流の充実へとつながっています。

交流での学びを深める道徳教育

交流という体験活動により、道徳教育を充実させるとともに、一人ひとりが自信をもち、人を大切にしながら自己実現できる力をもつことを目指します。



日常の交流活動

4年生は、毎週火曜日の昼休みに熊本支援学校を訪問し、屋外での遊具を使用した遊び、屋内での読み聞かせやゲームなどを通して、交流を深めています。そして、総合的な学習の時間の活動へつないでいます。

異学年交流

1年生から6年生を分けて編成して行う「縦割り班活動」では、読み聞かせ、給食、遊び、ボランティア活動、緑化活動など、さまざまな活動を行っています。

地域との交流・連携

老人会や町内自治会など地域の各団体と連携し、子どもたちと地域住民の心をつなぐ交流活動を行っています。



屋内外での遊びを通じた交流
日常の交流活動。4年生が毎週火曜日の昼休みに熊本支援学校を訪問し、屋内での遊びを通して交流を深めています。

出店が並ぶ秋の交流集会
支援学校の子どもたちも楽しめるよう工夫を凝らしたゲームなどを実施します。

交流により育まれる 思いやり・助け合いの心

交流活動を核とした道徳教育を進めることで、子どもたちの中に、互いの違いと良さを認め合う気持ち、障がいのある人に対してだけでなく下級生や幼児への優しさや思いやりの心、自尊感情が育まれています。また、交流集会の企画運営など、自主的な活動を積み重ねることで、より良い自分、より良いクラス、より良い学校にしていこうとする自主的な意識が高まっています。34年間の活動継続により、保護者や地域にも活動を守り、支え、支援しようという意識が浸透しており、その思いが子どもたちに受け継がれています。両校の教職員が連携し、保護者と地域を巻き込みながら、さまざまな活動を展開しています。



「遊び場」での創造性豊かな遊び
熊本支援学校に設置された遊び場。両校の子どもたちが、大きなすべり台などでのびのびと遊びます。



4年生時の経験を生かして創意工夫
4年生での交流が、5、6年生になって交流集会を行う際の創意工夫に反映されています。



「縦割り班活動」で異学年交流
1～6年生を分けて編成して行う「縦割り班活動」で、ボランティア活動や緑化活動を実施。異学年での交流活動も充実させています。



交流を通して自尊感情を醸成
交流を通して、子どもたちの中に、互いの違いと良さを認め合う気持ち、優しさや思いやりの心、自尊感情が育まれています。

参加した皆さんの声

4年生になって交流を始め、変わったこと。それは、心です。今までの自分は周りをよく見ようとしない自己中心的な人間でした。でも、交流を重ねることで、人のつらさや楽しさが見えるようになりました。パートナーのことを考えると心が温かくなり、何にでも挑戦できる初めての一步を踏み出せるようになりました。(4年生)

今日、うれしかったことは二つあります。一つ目は、鬼ごっこをしているときに、私が手をつなぐとパートナーがギュッとにぎり返してくれたことです。二つ目は、教室にもどっていたら、パートナーがずっと笑っていたことです。パートナーが笑っていると、私も元気になるし、楽しい気分になるなと思いました。(4年生)

今日は、自転車に乗ることができませんでした。でも、パートナーは自転車を指さして「あれのりたい」と言っていたので、私の心の中は「どうしよう」と困っていました。本当は言いたくなかったけど、「ごめんね。がまんして」と言いました。パートナーの気持ちはすごくわかりました。でも、「がまんをする」という心も大切なんだから、おもしろいと言いました。(4年生)

今日うれしかったことは、パートナーが私の手をはじめてつよくつかんだことです。ちょっといたかったけど、パートナーが私に本気で心を開いてくれたんだなと思うと、なぜかいたみも消えました。来週も、今日みたいに私に全力で心を開いてほしいと思いました。(4年生)

交流を重ねるごとに相手のことを知り、思えることができるようになってきました。いやることのできるようになってからも、明らか交流後に書く「交流日記」からも、明らかにその成長が感じられます。4年生での交流が5、6年生になった時に反映され、交流集会では、「支援学校の子もたちが楽しめるようにどのような集会にしたらよいか」と、自分たちで考え工夫できるようになっています。(教諭)

今日は交流最後の日でした。「交流とは何か」と聞かれたとき、前は人とふれあうことと聞いていました。でも、今は違います。交流は人とふれあうだけでなく、人と人の心をつなぐ大切なものだと気づきました。長かった一年間、自分が何を学んだか改めてわかりました。(4年生)

3つの工夫

進める工夫

両校全児童参加の交流集会を行い、交流を深めるとともに、活動の目的や意義を共有しています。道徳教育全体計画、特別支援教育全体計画など、交流活動をふまえた諸計画を提案し、共通理解を図っています。全教職員が道徳教育をすべての教育の根底に置いて、実践を積み重ねています。

広げる工夫

学校だより、研究部だよりなどの配布、ホームページ、授業参観や学校行事など学校から発信する場を多く設け、開かれた学校づくりを進めています。老人会や町内自治会など地域の各団体との交流活動を活発に行っています。これらの地域団体やPTAが交流活動をサポートしています。

続ける工夫

34年間の継続により、活動が両校・地域・保護者に浸透しており、三者が連携しながら活動を支え、受け継いでいます。両校が隣接しているという立地条件を生かし、教職員が連絡を密に取り、連携・協力体制を維持しています。子どもたちの成長が、活動継続の原動力となっています。



創作する喜びを体験
院内学級などで、人形
「ハッピードール」作り
を実施。心安らかな時間
を届け、創作の喜びを提
供しています。

入院生活を送る子どもたちにワクワクする時間を提供

Happy Doll Project (ハッピードールプロジェクト)

●活動領域

- 家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

- 自分に 他者に 社会に

活動内容の紹介

全国の病院をつなぐアートプロジェクト

全国の院内学級や子ども病院などへ出向き、子どもたちやその家族、施設職員と一緒に人形を作る「Happy Doll Project」を実施しています。布や裁縫道具などを持ち込み、「自由な発想で、こころを込めて作る」こと以外はすべて自由とし、人形「ハッピードール」作りを行います。完成した作品は、作者の名前と願いごとと共に、展示用ウォールに数週間展示されます。その後、全国の開催地でも作品を展示し、キャラバンの軌跡を1冊の本にまとめ、預かっていた作品と共に作者の元へ送り届けられています。

活動の広がりなど

創る喜び、生きる喜びを被災地や海外にも

2013年度までに、全国で56回実施し、1,500名以上が参加しました。入院生活では決められたことが多い中、好きなことをしたいと言われて最初は戸惑っていた子どもたちも、色とりどりの材料やスタッフの声に刺激を受け、創作に夢中になっています。東日本大震災の被災地にも支部を設置し、児童クラブなどで活動を実施しています。さらに、海外でも活動を展開。ストレスの多い子どもたちに心安らかな時間を届けると共に、工夫し創作する喜び、達成感、多くの人に見てもらい喜びなどを提供しています。



参加した皆さんの声

- 痛い、痛いと言った上で言っていたのが嘘みたいだ。作ってる間に忘れてた。薬より効く。
- 作れるものなんてないと思っていたのに、自分でも人形が作れてうれしい。

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

力や時間に制限のある子どもたちも創作を楽しめるよう、さまざまな材料のほかホッチキスなど使いやすい道具も用意しています。出来上がった作品を全国の開催地で展示してから返却することで、作品に付加価値を加え、未来への楽しみを醸成しています。全国での展示は、活動の認知拡大にもつながっています。ホームページやSNSで、展示会や報告会の告知、ボランティア募集などを行うことで、参加者が増加しています。被災地支援事業などからの助成、企業からの協力を活用しながら活動を継続しています。



多彩な地域活動を展開
フリースクール「とれぶりんか」・中学校の
サークル・地域が一体となり、さまざまな地
域活動を展開しています。

地域と子どもたちを結び、子どもたちの生きる力を育む 中学生と卒業生をつなぎ地域を変える 子ども・若者の居場所づくり

●活動領域

- 家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

- 自分に 他者に 社会に

活動内容の紹介

学校・卒業生・地域一体の地域活動

「とれぶりんか」は、阪神・淡路大震災をきっかけに設立された大阪府枚方市立渚西中学校内のボランティアサークル「ふれあいサークル」から派生したフリースクールです。「ふれあいサークル」顧問の中川先生と卒業生が中心となり、地域とさまざまな問題を抱える子どもたちを結び、子どもたちの生きる力を育む場として設立しました。「ふれあいサークル」と「とれぶりんか」が連携し、子どもたちを支援する取り組みを核にしながら、劇公演やバリアフリーコンサート、被災地支援などさまざまな地域活動を行っています。

活動の広がりなど

社会の課題を解決していく担い手に

「とれぶりんか」には、文科系・福祉系・体育系など10の専門部が設置されており、子どもたちは得意分野や好きなことを見つけ、仲間をつくり、主体的に活動しています。問題を抱える子どもたちが、感謝される喜びや達成感を得て、生きる力を育んでいます。地域活動には、高齢者をはじめ世代を超えた多くの地域住民が参加しています。世代も背景もさまざまな人々との活動を通して、地域が抱える問題を多くの人に知ってもらい、子どもたちにそれらを解決していく担い手として成長してもらうことを目指しています。



参加した皆さんの声

- 仲間ができて救われた経験や、希望を持つ大切さを演技に込めた。笑顔になってもらえてよかった。(劇公演を終えて)
- 「つらいことはつらいと言っていんだよ」と伝えている。生徒たちの顔が、態度が、いきいきと変わっていくのがうれしい。(ボランティア)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

文科系・福祉系・体育系などに分かれた専門部が、子どもたちの得意分野を引き出し、自己発言できる場となっています。劇公演やコンサート、バリアフリーのスポーツ交流会など多彩な活動により、地域に認知が拡大。これらの活動継続と、月1回でも都合のいい時に参加できる「月1ボラ」などの制度により、地域にボランティアのネットワークが形成されています。不登校だった生徒を含む卒業生30名が契機となり、地域住民が運営スタッフとして活躍するなど、人材が循環しています。放課後教室の実施や人権講演など、さらに活動を広げています。



全国の学校が活動に参加
全国で育てられた種を福島県内で咲かせることで、全国との絆を深めています。種を通して、活動を拡大。

福島と全国の絆づくりと共に、雇用対策、観光対策、教育対策を 福島ひまわり里親プロジェクト

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

ひまわりをシンボルに絆をつなぐ活動

「福島ひまわり里親プロジェクト」は、福島県外で育ててもらったひまわりの種を福島県内で咲かせ、復興のシンボルにすると共に、福島県と全国の絆を結ぶ活動です。福島の復興を願い、種を購入し、育て、採れた種を福島に送る「里親さん」を募集。その種を県内に無料配布し、咲かせることで、福島と全国の絆を深めています。販売する種のパック詰めは、県内の知的障がい者通所施設の仕事になっています。絆づくりと共に、雇用対策、観光対策、子育てのこころを育む教育対策として、活動を展開しています。

活動の広がりなど

福島県を除くすべての都道府県が参加

「福島へ子どもたちを連れていくことは難しいが支援をしたい」「種を育てることならできる」といった多くの要望に合致し、福島県を除く全都道府県に活動が広がっています。2013年度までに、500以上の学校をはじめ、個人、団体など計10万人以上が活動に参加し、福島県内16,000ヶ所までひまわりが開花しました。活動を通して、全国と福島の学校同士の交流や、学校と地域の交流が生まれています。交流イベントの開催、全国から集まった応援メッセージの展示、プロジェクトの「絆」を伝える絵本の作成など、活動を広げています。

参加した皆さんの声

- 今回の活動で学んだことは、助け合うことの大切さです。遠い土地であったことだと他人事にするのではなく、自分に置き換えて考えることがいかに重要であるかがよくわかりました。(高校生)
- 元気になりました。自分たちも勉強を頑張ります。(里親さんからのメッセージを読んだ福島県の小学生)

3つの工夫

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「ひまわりを咲かせ、種を採り送ることで、福島の応援になる」という目的を明確に掲げ、活動を進めています。絵本や紙芝居を作成し、子どもたちが活動の意味や目的を理解し、楽しんで取り組めるよう図っています。年3回発行の「ひまわり新聞」やメールマガジンで全国と福島の活動紹介を行い、活動の拡大や継続につなげています。福島と全国の参加者が集う交流イベントを開催し、活動への意欲を高めています。風化防止、道徳・人権・防災教育など、ひまわりの種を通して活動拡大を目指しています。

●所在地：〒960-8055 福島県福島市野田町6-7-8 B103 ●TEL:024-529-5153 ●FAX:024-529-5794
●E-mail: info@sunflower-fukushima.com ●HP: http://www.sunflower-fukushima.com/ ●代表者: 半田 真仁 担当者: 清野 和也

2012年度受賞者紹介



※活動内容の詳細はHPをご覧ください。

■全国大賞 東中ファミリーサポーターズ・ 東中地域活性隊(兵庫県)

活動テーマ：地域と生徒との「共育・協育・今日行く」双方向の活動
所在地：〒664-0892 兵庫県伊丹市高台2丁目54番地 伊丹市立東中学校内
TEL：072-782-3058
FAX：072-778-0954
E-mail: t_higasi@itami.ed.jp
HP: http://www7b.biglobe.ne.jp/~tfs/
代表者：林 幹郎/担当者：山下 貴志

■ブロック大賞(北海道・東北ブロック)

酒田市立第三中学校(山形県)
活動テーマ：「三中コミュニティ」活動
所在地：〒998-0841 山形県酒田市松原南13番地の1
TEL：0234-22-1029
FAX：0234-23-8715
E-mail: sakata3@sakata.ed.jp
代表者：太田 英一/担当者：小野寺 茂義

■ブロック大賞(関東ブロック)

特定非営利活動法人 まえはら子育てネットワーク「豆の木」(千葉県)
活動テーマ：小学生あつまれ! ～「知っている」を「やったことある」に～
所在地：〒274-0825 千葉県船橋市前原西6-1-64
TEL/FAX：047-476-7802
E-mail: genkinet@yf.ciao.jp
HP: http://genkinet.ciao.jp/
代表者：友國 尚子/担当者：磯部 仁美

■ブロック大賞(中部ブロック)

特定非営利活動法人 いのちをバトンタッチする会(愛知県)
活動テーマ：いのちの授業 ～いのちを大切に作る家庭、地域、社会を築く～
所在地：〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-7-2 東海医療科学専門学校内
TEL/FAX：052-581-8686
E-mail: inochi-b@hm7.aitai.ne.jp
HP: http://hm7.aitai.ne.jp/~inochi-b/
代表者(担当者)：鈴木 中人

■ブロック大賞(中国・四国ブロック)

古江地区地域安全推進委員会(鳥根県)
活動テーマ：トンネル壁画制作が結んだ中学生と地域の輪
所在地：〒690-0151 鳥根県松江市古曾志町1517-3
TEL：0852-36-8054
E-mail: kohoku-j@city.matsue.ed.jp
代表者：中倉 敏彦/担当者：大町 由紀子

■ブロック大賞(九州・沖縄ブロック)

次世代のためにがんばる会(熊本県)
活動テーマ：青少年育成「机上論ではなく、行動力」「人の意識改革・人づくり」
所在地：〒866-0856 熊本県八代市通町6-43
TEL：0965-32-5081
FAX：0965-32-2528
E-mail: yukarin-m@mx32.tiki.ne.jp
HP: http://ganbarokai.com/
代表者(担当者)：松浦 ゆかり

■奨励賞(北海道・東北ブロック)

まつお文庫(宮城県)
活動テーマ：まつお文庫
所在地：〒984-0821 宮城県仙台市若林区中倉3丁目16-8
TEL/FAX：022-231-2712
HP: http://blog.goo.ne.jp/matuobunngo/
代表者(担当者)：松尾 福子

■奨励賞(関東ブロック)

一般社団法人 みんなのとしょかん(栃木県)

活動テーマ：「みんなのとしょかん」プロジェクト
所在地：〒326-0035 栃木県足利市芳町26
TEL：0284-43-8913
FAX：0284-40-3071
E-mail: uni-staff-mb@kind.ocn.ne.jp
HP: http://www.mintosho.org/
代表者(担当者)：川端 秀明

■奨励賞(関東ブロック)

特定非営利活動法人 子ども広場あそびこどもたち(東京都)

活動テーマ：三ツ又冒険遊び場たぬき山
所在地：〒194-0044 東京都町田市成瀬1-19-32 岡本恵子方
TEL/FAX：042-728-9240
E-mail: asobekodomotati@yahoo.co.jp
HP: http://www.tanuki-yama.com/
代表者：大野 浩子/担当者：岡本 恵子

■奨励賞(中部ブロック)

みやこだ自然学校の会(静岡県)

活動テーマ：みやこだ自然学校
所在地：〒431-2102 静岡県浜松市北区都田町1642
TEL：090-8540-6860
E-mail: info@satono-ie.org
HP: http://satono-ie.org/
代表者(担当者)：加藤 正裕

■奨励賞(近畿ブロック)

公益財団法人 とよなか国際交流協会(大阪府)

活動テーマ：こどもがつくるこどものまち「たぶんかミニとよなか」
所在地：〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-601「エトレ豊中」6階
TEL：06-6843-4343
FAX：06-6843-4375
E-mail: atoms@a.zaq.jp
HP: http://www.a-atoms.info/
代表者：松本 康之/担当者：山根 絵美

■奨励賞(中国・四国ブロック)

任意団体 NPOえひめ心のつばさ(愛媛県)

活動テーマ：親と子の心のSOSを受けとめて
～長期欠席・いじめ・ひきこもりで苦しむ子どもと親達の心を救い、学校・社会復帰へと導く～
所在地：〒790-0047 愛媛県松山市余戸南3丁目3-39
TEL：089-971-5706
FAX：089-965-2806
HP: http://www.tsubasa-room.jp/
代表者：大野 まつみ/担当者：徳永 浩子

■奨励賞(九州・沖縄ブロック)

小船越町通学合宿実行委員会(長崎県)

活動テーマ：地域で取組む長期通学合宿
所在地：〒854-0062 長崎県諫早市小船越町1186-22 小船越町通学合宿実行委員会事務局
TEL：0957-22-3813
E-mail: furukawa0957@yahoo.co.jp
代表者：山内 正登/担当者：古川 隆志

■個人の部 個人賞

高村 豊(愛知県)

活動テーマ：障がい児のための「おもちゃ図書館」活動
TEL/FAX：052-471-0028
E-mail: yutaka1951122@yahoo.co.jp

■個人の部 奨励賞

近江 敦子(北海道)

活動テーマ：小児病棟での絵本読み聞かせ
TEL：090-1384-1118
E-mail: anko1217@hotmail.com